

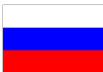
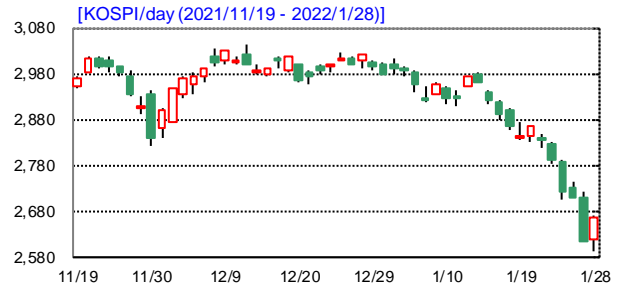


【韓国】 総合指数は週間で6.0%安と6週続落、1年2カ月ぶり安値を更新

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で6.0%安と6週続落。売り優勢の展開が続き、週明けの24日から27日まで連日で昨年来安値を更新した。米金融政策やウクライナ情勢、北朝鮮によるミサイル発射、韓国国内の新型コロナ感染者の高止まりなどの不安材料を抱える中、リスク回避の動きが加速。25日に発表された21年のGDP速報値は前年比4%増と10年以来の高い伸びとなったが、市場の反応は限られた。27日は米FOMCの結果を受けて米金融引き締めへの警戒感が高まり、3.5%安と急落。節目の2700ポイントを大幅に下回り、20年11月以来およそ1年2カ月ぶりの安値を付けた。28日は6営業日ぶりに反発。好決算を発表した半導体のSKハイニックスが上昇している。今週は旧正月で週前半が休場となり、3日に取引を再開する。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で0.4%高と4週ぶりに反発、今週は一進一退か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.4%高と4週ぶりに反発。週明けに急落したが、原油高が追い風となる中、ロシアがウクライナ侵攻の可能性を否定したことで、その後大きく反発した。24日はウクライナ情勢の緊迫化が嫌気され、前週末比8.1%の急落。ただ、米国株の上昇を追い風に25日に0.7%高と反発すると、26日は原油高も支援となり、2.1%高と続伸。27日は、ロシア外務省がウクライナ侵攻の可能性を否定したことで5.7%の大幅高。28日も0.5%高と4日続伸した。ルーブルが対ドルで0.9%下落した一方、ブレント原油は2.4%高と6週続伸した。個別では金融のTCSグループが12.3%高と急伸し、エネルギーのタトネフチが6.2%、ガスプロムが5.8%上昇した。今週は欧米株と原油相場をにらんで一進一退か。

▼指数チャート

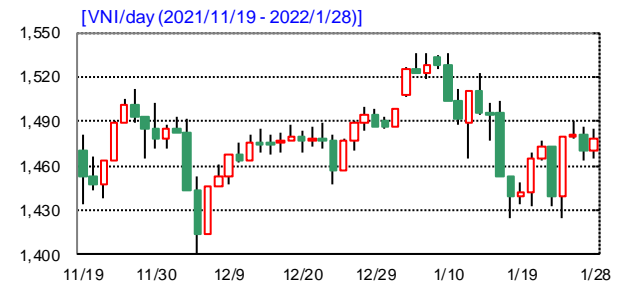


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.4%高と3週ぶりに反発、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.4%高と3週ぶりに反発。主力大型株が売られ、週初に大きく下落したが、その後は押し目買いが強まった。週明け24日は銀行株が上昇したものの、主力大型株や証券株が売られ、VN 指数は前週末比2.3%の大幅安。ただ、翌25日は主力大型株に押し目買いが入り、指数は2.8%高と大幅に反発した。その後はもみ合いとなったものの、週間では3週ぶりに反発して終了した。個別銘柄では、金融のベトナム・プロスペリティー・バンクが6.9%高、テクコムバンクが6.0%高、軍隊商業銀行も6.0%高とそろって上昇した一方、食品加工のマサン・グループが5.3%安、ゴム製品のベトナム・ラバーが3.7%安、鉄鋼のホア・ファット・グループが2.5%安となり、指数の重しとなった。今週はもみ合う展開か。

▼指数チャート

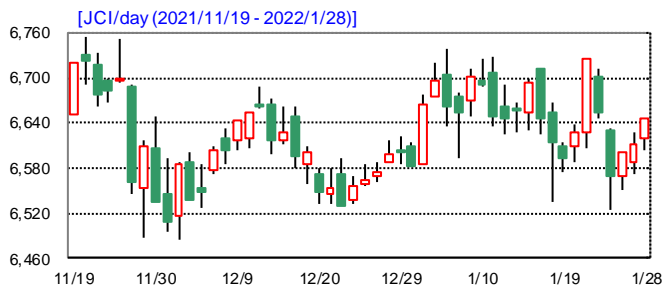


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.2%安、今週は 2 日に 1 月の CPI 発表

ジャカルタ総合指数は週間で 1.2%安と反落。週前半の下落が響いた。週初の 24 日は、前週末に終値で過去最高値を更新した反動に加え、米 FOMC の開催を 25-26 日に控えた様子見や、ウクライナを巡る地政学リスクの高まりで売られ、指数は前営業日比 1.1%安と 3 日ぶりに反落。25 日も下げ止まらず、前日比 1.3%安と終値で節目の 6600 ポイントを割り込んだ。ただ、26 日に買い戻されると、27 日は金融株が指数上昇をけん引。28 日も買い優勢の展開が続き、3 日続伸して引けている。今週は 2 日に 1 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 2%台になる見通し。1 日は旧正月のため休場となる。

▼指数チャート

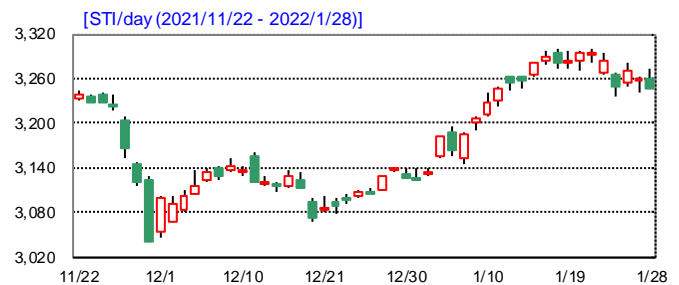


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.5%安、金融通貨庁が予定外の金融引き締めを発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.5%安と 5 週ぶりに反落。さえない値動きが続いた。週初の 24 日は、21 年 12 月の物価上昇が加速したことが嫌気されて 4 日ぶりに反落。25 日は金融通貨庁が予定外の金融引き締めを発表した影響で前日比 1.1%安と続落したが、26 日は 12 月の鉱工業生産が市場予想から上振れした効果などで買い戻された。ただ、27 日に米国の金融正常化に対する不安感から売られると、28 日は続落して引けている。今週は 3 日に 1 月の製造業 PMI、4 日に 21 年 12 月の小売売上高が発表される予定で、市場予想を上回れば好材料。31 日は旧正月前日のため半日立ち合い、1-2 日は休場となる。

▼指数チャート

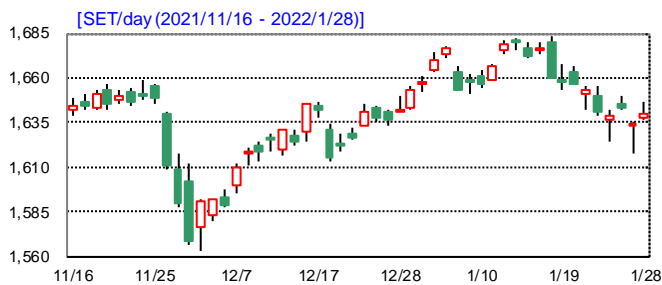


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8%安、財務省が 21 年の GDP 成長率見通しを上方修正

SET 指数は週間で 0.8%安と続落。不安定な値動きが続いた。週初の 24 日は、買い材料に乏しく 5 営業日続落。25 日も売り優勢の展開が続いたが、26 日は米 FOMC 後の声明発表を目前に控える中、前日までの反動で 7 日ぶりに反発した。27 日は前日にパウエル FRB 議長が 3 月の利上げを示唆したことが売り材料となり反落したが、28 日は財務省が 2 月に発表する 21 年の GDP 成長率の見通しを 1.0%から 1.2%に上方修正した効果などで反発して引けている。今週は 31 日の 21 年 12 月の鉱工業生産に続き、4 日には 1 月の CPI が発表される予定。前年同月比の CPI 上昇率は 4 カ月連続で 2%台になると見込まれる。

▼指数チャート

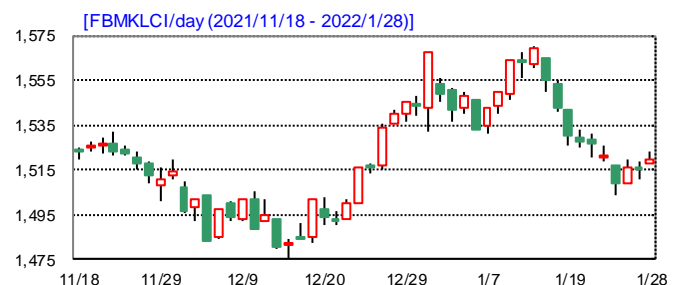


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.5%安、週前半の続落が痛手

クアラルンプール総合指数は週間で 0.5%安と続落。週半ば以降に買い戻されたが補えなかった。週初の 24 日は、ハルタレガを含む大型株の一角が売られ、指数は 6 営業日続落。25 日も下値を広げたが、26 日は幅広い銘柄に安値拾いの買いが入り、8 日ぶりに反発した。27 日は前日からほぼ横ばいで推移した後、28 日はパーム油と原油価格の上昇を受けて関連銘柄が買われたほか、21 年 12 月の貿易収支が市場予想を上回った効果で、3 日続伸して引けている。今週は経済イベントが少ない中、前週末の NY ダウが反発したことは株式相場の追い風か。31 日は旧正月前日のため半日立ち合い、1-2 日は休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。